

## 2分の1成人式と自己肯定感

著者	西川 学
雑誌名	人権を考える
巻	21
ページ	57-73
発行年	2018-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1443/00007803/">http://id.nii.ac.jp/1443/00007803/</a>

## 2分の1成人式と自己肯定感

短期大学部准教授 西川 学

### 1 はじめに

2017年1月と2月に枚方市内の公立小学校の授業を参観させていただく機会があった。いくつかの小学校を回りながら、現在の小学校教育、特に国語科教育の現状を知り、課題や問題点を探ることが目的であった。ある日、たまたま伺った小学校は全学年が保護者の授業参観日であり、4年生の教室は総合的な学習の時間が行われていた。单元名・ねらいは、「2分の1成人式」(自分の将来を伝えよう)であった。授業内容は、クラス全員に自分の将来なりたい職業や将来の夢について発表すると共に、参観に来てくれた保護者に今まで10年間育ててくれたことに対する感謝を伝え、その内容の手紙を渡す、というものであった。

私はこの時に初めて総合的な学習で行われている「2分の1成人式」の授業風景を見たのである。しかし、その時私は少し違和感を覚えた。以下に、2分の1成人式の授業から考えた自己肯定感と人権、学校教育のあり方について考えを述べていくこととする。

まず、「2分の1成人式」についてである。ベネッセ教育情報サイト「いまや定番化しつつある小学校のイベントに！「2分の1成人式」とは？」<sup>1</sup>では、保護者にその内容に関してアンケート調査を行い、次のような結果を示している。

---

<sup>1</sup> ベネッセ教育情報サイト「いまや定番化しつつある小学校のイベントに！「2分の1成人式」とは？」2017年2月27日【調査地域：全国 調査対象：中学生・高校生のお子さまをおもちのかた 調査期間：2016年12月12日～2016年12月26日 調査手法：「Yahoo!クラウドソーシング」におけるWebアンケート 有効回答数：1,205名】  
<http://benesse.jp/kyouiku/201702/20170227-2.html> (最終閲覧日：2018年1月13日)

2分の1成人式とは、子どもが本来の成人式にあたる10歳を迎えたことを記念して、昨今小学校で行われているイベントです。(中略)最も多かった内容は、「歌」でした。続いて、「スピーチ」「保護者への手紙」がほぼ同数でした。

「2分の1成人式」は、成人の2分の1の年齢である10歳を迎えたことを記念して、小学4年生で実施される授業であること。また、近年ではこの授業が行事化・イベント化されたものになりつつあることがわかった。子どもたちにとっては、自分が生まれ育った10年間を振り返り、赤子であった頃のことを保護者から聞かせてもらったり、写真を眺めたりすることを通して、自分がかげえのない存在であることを確認するとともに、保護者に対する感謝の情を自然に抱き、さらに、将来への希望もより強く感じることでよい機会となる、というのである。

次に、では、なぜただの授業が行事化・イベント化するのであろうか。それには、下記のような理由があるからである。

#### ●保護者への手紙

「一人ひとり親へのメッセージを読み上げてくれて感動した。他の子たちの手紙も聞けて楽しかった」「それぞれの親に対して、目の前で手紙を読んでくれて、感謝の気持ちを伝えられたときに涙が出た」

「合唱」だけ、「スピーチ」だけではなく、「合唱とスピーチ」、「スピーチと保護者への手紙」というように複数の企画を実施している学校も多かったようです<sup>2</sup>。

すなわち、子どもが保護者に感謝の手紙を読み、それを渡すこと。また、合唱とスピーチ、スピーチと保護者への手紙のように、参観者である保護者に見せる(魅せる)内容構成がこの授業で展開されていることが多いからである。さらに、参加した保護者からは次のような感想を聞くことができる。

---

<sup>2</sup> 注1に同じ。

「感動した」「楽しかった」と答えたかたが多かったです。「感動した」と答えたかたの具体的なエピソードをご紹介します。

●「スライド上映があり、赤ちゃんの頃、小学校入学、そして現在と、子どもたち一人ひとりの成長過程が流れて『みんな大きくなったな』と感動して涙ぐみました」

●「親から子へ、子から親へと手紙をお互い贈り合うという趣向で、とても感動した。小さい頃の写真を持ち寄ってスライドショーにしたのも成長ぶりを実感できて良かった」

●「子どもから生まれた瞬間のことを聞かれ、改めてゆっくり話すことができて、愛しい存在なんだと再確認できた」

10歳という一つの節目を迎え、親子でこれまでの歩みを振り返る良い機会となっているようで、多くの保護者が「感動した」「楽しかった」と回答していました<sup>3</sup>。

「2分の1成人式」の授業は、文部科学省が定める学習指導要領のどの教科や活動にも記載は無いが、実施校や教師の裁量によって学習活動の一環として行われている。そして、学校で行われる場合には、1月から2月の3学期、小学校中学年の4年生を対象に、校長や保護者代表による祝いの言葉、「2分の1成人証書」の授与、合唱等の内容が行われることが多い。つまり、この授業や取組が4年生の3学期の一大イベント、いや中学年の最大のイベントと認識されている様子もうかがえる。しかし、この授業の目的が子どもを対象とするものではなく、保護者が「感動する」「楽しかった」と感想を持つ対象になっていることは問題ではないだろうか。

---

<sup>3</sup> 注1に同じ。

## 2 2分の1成人式の問題点

『毎日新聞（2015年2月27日）』「2分の1成人式 より盛大に」<sup>4</sup>の記事には、

小学4年生を対象にした「2分の1成人式」が小学校で急速に広がっている。二十歳を祝う「成人式」の2分の1に当たる、10歳を迎えたことを祝うものだ。保護者を含めた新たな学校行事になりつつある一方で、さまざまな事情を持つ家族への配慮が行き届いているのかに懸念を示す専門家もいる。

### ●平日でも立ち見

今年の「成人の日」の約1カ月後、川崎市立梶ヶ谷小で2分の1成人式が開かれた。児童の後ろでは、その数をやや超えるほどの保護者が熱心に見守った。平日にもかかわらず父親の姿も数十人に上り、立ち見も出た。

プログラムは「10年間のありがとう」の暗唱でスタート。4年生約110人が「大人になるまで10年間よろしくお願いします」と声をそろえた後は、地域に伝わる獅子舞や、縄跳び、合唱などで、成長した姿を披露。1人10秒の「将来の夢宣言」、保護者へ手紙のプレゼント、と盛りだくさんの1時間強だ。

同校のイベントは総合学習の授業に組み込まれている。(中略)

### ●教育目標と重なり

2分の1成人式は02年度版の国語の教科書の中で「十さいを祝おう」という単元で登場し、全国に広まったといわれる。文部科学省も小4向けキャリア教育案の中で取り上げる。ほかに命の教育や自己肯定感の養成など、この時期の教育目標と合わせやすく、保護者の反響も良いことから多くの学校が行うようになったようだ。

急速な広がり企業も着目し、今年は下着メーカー、ワコールが「母

<sup>4</sup> 「2分の1成人式 より盛大に」『毎日新聞縮刷版 平成27年2月号（2015年2月27日）』782号、2015年、毎日新聞社

娘の1／2成人式」と銘打って体の変化に着目するキャンペーンを実施。子ども専門写真館「スタジオアリス」も専用台紙をプレゼントするプランを展開する。(中略)

●幸せな家庭前提？

一方、名古屋大の内田良准教授（教育社会学）は、「親への感謝の手紙」が定番になっていることに触れて「感謝されるほど親は子どもに尽くしている、という幸せな家族像だけを前提にしていないか」と疑問を投げかける。虐待を受けている子どもは虐待に耐え、学校でそれを隠す。そのうえ、教師が「幸せな家族」しか頭がないなら逃げ場がなくなると懸念する。「幼い頃の写真の提出も、多様な家族が増える中で子どもや保護者を傷つけることがある」

内田准教授は「家族は安心安全の場になり得るけれど、壊れることもあるし、多様な家族の形があるというメッセージをまず学校は伝えてほしい」と求めている。

柔道による事故など学校内での事故の研究で知られる内田准教授は、2分の1成人式にも共通の構造を感じるという。「教育的意義がある、感動するなど『いいものだ』と思うと、負の側面が目に入らなくなり、ストップできなくなる。式自体が問題とは思わないが、負の側面にも目を向けて内容を考えるべきではないでしょうか。」

長い引用になってしまったが、現在行われている2分の1成人式の実態と状況を把握していただけたかと思う。また、その問題点や課題、異様性についても分かっていたかと思う。

この授業や行事の問題点や課題の最大は、学校で行われているのにも関わらず、子どもや生徒主体ではなく、保護者を意識した内容になってしまっている点である。

ベネッセ教育情報サイト「9割が満足！親子で感涙する「2分の1成人式」

とは!？」<sup>5</sup>のアンケート結果では、保護者の参加が6割で、子どものみが参加したのは3割であった。内容は子どもの個別発表が6割、保護者のメッセージや手紙を贈るがほぼ4割、合唱の披露が3割5分などを複合的にを行い、式典化・行事化していると判断される。子どもの個別発表の内容の半数以上は、「未来の夢」であり、保護者への感謝表明が約2割7分であった。具体的に内容を確認しておく。

- 子ども1人ずつ、写真と将来の夢がスクリーンに映し出されました。  
写真は、生まれたとき、1歳のときというように、小さなころから順を追って映写されました
- 子どもが1人ずつ、自分の将来の夢や両親への感謝の気持ちなどを書いた作文を読み上げました。司会進行も、先生ではなく、子どもが行いました【下線筆者】

子どもたちは、下線を付したように生まれた時からの写真を映写しながら、保護者への感謝の手紙を読み上げることがこの授業の1つの典型になっていることがうかがえる。

保護者から子どもへの手紙の内容はどのようなものであるのだろうか。

図1で見たように、「2分の1成人式」では保護者からお子さまに手紙やメッセージを贈るケースも少なくありません。では、保護者からお子さまには、どのようなことを伝えたのでしょうか。保護者からお子さまへのメッセージは、次のように「生まれてから10歳になるまでの思い

<sup>5</sup> ベネッセ教育情報サイト「9割が満足!親子で感涙する「2分の1成人式」とは!？」2013年1月17日【アンケート期間:2012/12/05~2012/12/11 回答者数:1,249人 アンケート対象者:本サイトメンバー 「2分の1成人式」を行ったことがある、11歳以上のお子さまを持つ保護者のかた ※百分比(%)は小数点第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、各々の項目の数値の和が100%とならない場合がある。】  
<http://benesse.jp/kyouiku/201301/20130117-2.html> (最終閲覧日:2018年1月13日)

<sup>6</sup> 注5に同じ。

出]「将来に対する希望」に関する内容が目立ちました。

◎生まれてから10歳になるまでの思い出

●自分が家族にどれほど誕生を祝福され、健やかな成長を期待されてきたかを伝えるために、お腹にいるとわかったときのよろこび、難産を乗り越えて対面したときの感動などを話しました

●まず、名前の由来を伝えました。そして、1人で育ったのではなく、多くの人に支えられて成長してきたことをわかってほしいと、これまで家族が子どもにどのようにかかわってきたかを話しました

●子どもが生まれてからこれまでの思い出を、1年1ページの絵本にまとめました

●小さかったころのエピソードを話しました。また、わたしが感じている息子の良いところをほめました。最近は叱ることが多いので……

●生まれてきてくれたことへの感謝の気持ちを伝え、これからも世界中で最も良い理解者であり、夢を応援する支援者であり続けることを約束しました<sup>7</sup> 【下線筆者】

以上のように、クラスメイトや他の保護者がいる中で、家族のプライベートのことを話したり、手紙にしたりすることが多いことがわかる。これらのことは、本来的には家庭で子どもたちに個別で行っておくべきことであり、他の子どもや保護者に聞かせるべき内容ではないことである。

最後に、「2分の1成人式」についての保護者の満足度については、「満足である」という保護者が9割近くを占めていた。満足している理由は次の通りである。

●親子が互いに、普段はなかなか言えない感謝の気持ちを伝え合うことで、家族の絆が強まったと思うから

●10歳というと、自我がめばえ世の中のいろいろなことが目に入るよう

---

<sup>7</sup> 注5に同じ。



になるころ。親の言うことを素直には聞けなくなることも出てくると思います。そうした時期に、「2分の1成人式」で子どもに対する親の気持ちを伝え、親に対する子どもの気持ちを伝えたことは、子どもの成長にとって大きな意義を持つはずです

参加後の感想としても「子どもの成長を実感して、感動した」などの声がダントツでした。感動を伝えるエピソードとしては、次のような声が寄せられています。

●子どもからわたしたちに対する感謝の気持ちを伝えられ、夫婦で涙しました。普段はなかなか聞く機会がない子どもの思いを聞くことができ、とても良かったです

●自分の気持ちを自分の言葉で表現する。そうした、大人でも難しいことを、クラスのどの子どもも、しっかりできていました。「2分の1成人式」は、子どもの成長だけでなく、昔から知っている子どもの友達の成長も実感できる、素晴らしい機会だったと思います

●ありがとうという気持ちを正直に、自分の言葉で表現することは、誰に対してであれ難しいこと。身近な存在であれば、なおさらだと思います。「2分の1成人式」のように、保護者に感謝の思いを伝える機会があると、子どものコミュニケーション能力も高まると思います など<sup>8</sup>

親子の感謝の気持ちは、普段それぞれ感じてはいてもなかなか伝えにくいものである。そうした思いを互いに伝え合える機会となるからこそ、「2分の1成人式」で「感動した」という親子が圧倒的だったのではないだろうか。しかし、このことを学校の授業・行事で家族以外の人々の前で行う必要があるか、疑問が残る。

---

<sup>8</sup> 注5に同じ。

### 3 様々な配慮の必要性

私は、2分の1成人式に対して以下に述べる配慮や問題点が5点存在する  
と考える。

1点目は、この授業を行うことによって苦痛を受ける子どもがいること  
である。この授業や行事によって嫌な気持ちになり、苦しむ子どもは確実に  
いることが容易に想像できることである。例えば、保護者や家庭環境に特別な  
理由がある場合、保護者の様々な理由で参加できない場合、保護者から手紙  
がもらえない場合、クラスメイトの前で保護者に感謝を示したくない場合な  
どが想起される。このような環境下の子どもたちはこの授業で、いらぬ苦痛  
を受けることになる。もちろん、これらの条件に合う子どもたちは少数で、  
特殊かもしれない。けれども、配慮の必要な家庭環境の実態をクラスメイト  
の中で強く意識させられたり、プライバシーな心情を公開させられたりする  
経験を子どもにさせる必要があるだろうか。かなりデリケートな問題である  
ので私は秘匿すべき事柄であると考えます。

2点目は、学校は子どもたちが学習するべきところであるからである。こ  
の行事は2000年代に入ってから全国的な広がりを見せてきたものであるが、  
そもそも「総合的な学習の時間」や「道徳の時間」において、子どもたち  
が自分自身について考える機会をもつことがねらいの学習だったはずであ  
る。これまでの自分の生活を振り返り、将来について考える学習である。し  
かし、授業参観に合わせて、手紙などのやり取りを通じた保護者参加型の2  
分の1成人式を行ったところ、国語や算数の授業に比べて、教師は「親が喜  
ぶ」ことを知ったために広がってきたのではないだろうか。だとするならば、  
元々の学習のねらいに戻すべきである。すなわち、この授業を親とは一旦切  
り離し、子どもたちが自分自身についてもう一度改めて考える機会をもてる  
ような学習や授業内容に戻すべきである。

3点目は、学校教育において親を喜ばせるためのイベントは必要ないこと  
である。いうまでもなく学校は「子どもを成長させる」場所であって、「親  
を喜ばせる」場所ではない。しかし、この行事の問題点は、「親を喜ばせる」

場になっていることが問題である。保護者は、我が子に「育ててくれてありがとう」と言われ、感動し、涙する。けれども、この感動を喜ぶ保護者がいる一方で、少なからず苦しむ、悲しむ子どもがいることは大きな問題ではないだろうか。担任や担当教員が子どもたちのことを第一に考え、教師としてのプライドをもって取りやめる判断を行えば良いのだが、この行事や取組を止めた途端、保護者からクレームを受けるが、継続や実施すれば保護者の評価が上がるからである。保護者はそれだけこの授業や行事に期待していることが背景に存在しているのも事実である。

4点目は、公教育がやる必要がないことである。この行事を好意的にとらえる保護者や教員たちは、既に前記のベネッセ社のアンケート調査の通り、「親子が互いに、普段はなかなか言えない感謝の気持ちを伝え合うことで、家族の絆が強まったと思う」と考え、子どもに保護者への感謝を述べさせている。しかし、そのような決めつけの一方的なことを公教育ですることではない。実施している学校や喜んでいる保護者はおそらく無自覚かと思われるが、家庭状況を公に明らかにしてしまうこと、個人の心情を公開させていること、家族や保護者との関係の価値観を押し付けていること、などが実際には行われており、それらは公教育の一線を越えている。そもそも公教育は、様々な家庭状況や学習環境にある生徒がいるなか、できるだけ平等な学習の機会を与え、学習環境の平等化を図るべきである。いうまでもなく、2分の1成人式はこの「学習のスタートラインを揃える」原則に逆らうものである。

5点目は、関係者全員が余計な負担を強いられていることである。子どもも保護者も教員も、この行事のせいで関係者全員が余計な負担を負うことになっている。1つは、子どもから保護者への手紙を書くために何度も書き直したり、読む練習をしたりする負担があること。2つは、保護者から子どもへの手紙を何の同意もなく、書かされる負担があること。3つは、教員から親へ手紙の依頼をしたり、子どもの手紙の誤字脱字をチェックしたり、生徒が作文を読むための指導をしたりする負担があること、である。以上の3点を「育ててくれてありがとう」と言われたい保護者のために、皆が負わなくて良い負担を負うことは無意味であろう。やはり、子どもの「学習」に注力

すべきである。

さらに、法律の観点から弁護士は2分の1成人式を実施する場合の注意点について、次のように回答している。

他方で、儀式の内容によっては、自分自身の生い立ちや家族のことを他の児童や保護者の前で発表することを事実上強制されることになる危険もあります。そのような発表をする機会は一般社会では通常は想定されておらず、この儀式に特異な状況であると言うことができるでしょう。  
(中略)

児童が、自ら進んで生い立ちを語っている以上、形式的には、同意に基づいて自己の個人情報を開示していると言えますが、10歳の児童の同意能力については、疑問の余地もないわけではなく、そもそも、授業の一環として行われる場合には、自由意思による同意であると言えるかが問題となり得ますから、個人情報の開示の強制にわたらないような工夫が必要であると思われます<sup>9</sup>。

すなわち、法律家も2分の1成人式の実施に当たっては、個人情報を開示することになる点や自由意思を尊重できない可能性があり、内容に留意すべきことがあると述べている。ゆえに、実施に際しては十分な配慮が本当は必要なのである。

#### 4 自己肯定感の涵養

では、2分の1成人式をどのように改善すればよいのだろうか。そこで大切なことは子どもたちの自己肯定感の涵養である。教育心理学では、

子どもたちは教室での成功を内的要因に帰属させ自信をつけ、自尊感情を

---

<sup>9</sup> 澤田稔(2017)「教育問題法律相談No.399 2分の1成人式について」『週刊教育資料』No.1420、2017年2月13日号、日本教育新聞社、p31

高め、失敗の責任を避けたり、否定したりすることで自尊感情を保とうとしている。教師は子どもの自尊感情を損なわないように、能力にあった課題を与え、適度の成功感を味わえる学習環境作りに努めなければならない<sup>10</sup>。

と指摘されている。すなわち、子どもたちは教室で成功体験や他者から認められたり、同意されたりする経験を通して自己肯定感を高めることができるのである。

また、渡邊ひろみ<sup>11</sup>は子どもの発達段階における家庭環境と友人関係の調査研究から次の主要結果を導いた。

- 1) 家族関係がよい場合は、子どもの自尊感情は友だち関係の質に影響されない。しかし、家族関係がよくないと、自尊感情は友だち関係の影響を強く受ける。友だち関係の質が低いと自尊感情は大きく下がり、友だち関係の質が高いと逆に上がる。
- 2) 友人に恵まれた子どもたちは、家族関係がよくても悪くても、自尊感情が大きく変化することはない。しかし、友だちがいないと家族関係が良くない場合には、自尊感情は大きく低下する。
- 3) 家族関係がよくない家庭の子どもの場合には、友人関係の変化に伴って、子どもの自尊感情は大きく変化する。友だちができたことにより自尊感情が高まり、友だちを失うことにより自尊感情の大きな低下を経験する。

ゆえに、家庭環境や保護者に問題を抱える生徒や子どもたちは友人関係の中

---

<sup>10</sup> 荒木紀幸「7章 自尊感情 6 自尊感情と原因帰属、学業成績との関わり」荒木紀幸編（2007）『教育心理学の最先端－自尊感情の育成と学校生活の充実－』あいらり出版、p165-166

<sup>11</sup> 渡邊ひとみ「コラム 自尊感情の決定因は？家庭と学校」荒木紀幸編（2007）『教育心理学の最先端－自尊感情の育成と学校生活の充実－』あいらり出版、p177

でこそ自尊感情・自己肯定感を高めることができるのである。

その意味では、2分の1成人式を行う場合は、子どもたちの自己肯定感をクラスメイトや友だちとの関係の中でお互いに高めあい、涵養するような授業・行事の内容にするべきである。すでに、保護者を感動させる目的の2分の1成人式ではない授業実践も行われている。例えば、「小特集 子どもも保護者も大満足！「二分の一成人式」「立志式」成功のポイント」<sup>12</sup>で、西村健吾は、

- 1 本質的な意義に立ち返る
- 2 弊害を認知する
- 3 子どものための式にする

の3点を掲げて、「本質的」かつ「センシティブ」な2分の1成人式を実施する方法を提示する。また、多田幸城は、

- 1 感動を演出しない
- 2 次学年につながる取組にする
- 3 成長を実感できる企画にする
- 4 儀式の効果を活用する
- 5 保護者懇談会を開催する

の5点を掲げ、実施する場合の教師は演出家ではなく構成作家を目指して実施する方法・計画を示している。他にも子どもが主体となった2分の1成人式の授業実践<sup>13</sup>も報告されている。

<sup>12</sup> 西村健吾・多田幸城 (2017) 「小特集 子どもも保護者も大満足！「二分の一成人式」「立志式」成功のポイント」『授業力&学級経営力』82号、明治図書出版、p70-77

<sup>13</sup> 藤上真弓 (2015) 「イベントだけで終わらせない「1/2成人式」の在り方について：特別活動と総合的な学習の時間双方のねらいを達成するために」『教育実践総合センター研究紀要』40号、山口大学教育学部附属教育実践総合センター、p61-71

また、つぎのような授業実践と授業案も報告されている。

単元：2分の1成人式（4年総合的な学習）

- ・わたしの関係地図（目標：わたしと、まわりの人たちとの関係を図で表しその関係を見直す。）
- ・なりたいわたし、なれるわたし（目標：一般に理想のイメージは、周囲の期待、文化的背景、自己イメージなどを思い込むことから形成されるが、このようなイメージは真の理想ではないために実現可能なものではない。自分にとって、より現実的な理想を知る。）
- ・等身大の自分①（目標：自分と他人の良いところに着目し、認めあえるようにする。）
- ・Dreams come true（目標：イメージとからだとの関係を知り、肯定的に物事を考えられるようにする。夢を描き、実現しようとする意欲を育てる。）<sup>14</sup>

上記の指導案や指導計画は、WHO（世界保健機関）の精神保健部局が提唱したセルフエスティームを基盤とした「ライフスキル」<sup>15</sup>を元にして、授業に最適な45のプログラムを作ったもので、自分は価値ある人間だと思える健全な自尊心を育てることを目的としている。コミュニケーションスキルと対

---

吉田佳子（2004）「小学校モデル 将来設計「二分の一成人式」（小・中・高等学校の連続性に配慮した進路学習 2月）『進路指導』77巻2号、本進路指導協会、p30-33  
渡邊周二「天栄村における成人式の現状について-1/2成人式から-」『社会教育』679号、全日本社会教育連合会、p60-62

<sup>14</sup> 越智泰子・加島ゆう子・大東和子・棚橋厚子（2012）『授業ですぐ使える！自己肯定感がぐんぐんのびる45の学習プログラム』合同出版、p8

<sup>15</sup> 世界保健機関（WHO）は「日常の様々な問題や要求に対し、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」と定義している。WHOはライフスキルに最も重要な項目に(1)意思決定能力(2)問題解決能力(3)創造的思考(4)批判的思考(5)効果的なコミュニケーション能力(6)対人関係の構築と維持能力(7)自己認識(8)共感する能力(9)感情を制御する能力(10)緊張とストレスに対処する能力——を挙げている。(2007-01-29『朝日新聞 朝刊 大特集S』)

人関係スキル、意思決定スキルと問題解決スキル、自己認知スキルと他者理解スキル、創造的思考スキルと批判的思考スキルを組み合わせを行い、学習者主体の自己肯定感を育成するような授業内容になっている。

これらの授業実践からは、2分の1成人式を行いながら、子どもたち一人一人の自己肯定感を高めるための新しい授業方法が提示されている。決して、保護者を意識した授業・行事だけが2分の1成人式ではないのである。

## 5 おわりに

小学校4年生で行われている2分の1成人式の授業事例からその問題点や課題、改善策を以上のように考えてきた。問題点としては、子ども中心ではなく、内容や構成が保護者向けになっていることであった。また、様々な家庭環境や保護者との関係で生活する子どもたちにとっては、保護者に感謝したり、生い立ちをふり返ったりする2分の1成人式の授業や行事をつらいものであると思っている場合があることを指摘した。学校や保護者は「感動」を追いかけて、もっと配慮すべき子どもたちのことが見えなくなってしまうのである。学校とは子どもたちがつらい思いをしないように配慮すべきであり、またつらい思いをしている子どもたちを助け、救う場所でなければならないはずだ。2分の1成人式を否定するわけではないが、子どもたちの将来の夢を考えたり、10年後の自分に宛てた手紙を書いたり、それらをクラスで発表し合ったりするような子どもたち自身の未来に向けた、子どもたちが前向きな気持ちになることに役立つ授業や行事にすることもできるはずである。その際に重要なことは、子どもたち一人一人の自己肯定感がクラス内や学校の中で、他の子どもたちとの関わりにおいてお互いに気持ちが高まり、自分自身を高めあうことなのではないだろうか。家庭や保護者との関係で自己肯定感や自尊感情を高めることができない子どもたちにとっては、学校やクラスが唯一のくつろげる場所であり、友だちに認められることによって自己肯定感を高めることができるからである。その意味でも、教師は保護者受けの良い2分の1成人式を実施するのではなく、子どもたち同士の



関係性を重視し、すべての子どもたちに配慮した目的や内容、構成の2分の1成人式を実施する必要があるのである。また、子どもたちの関係性を常に的確に把握し、子どものたちの人間関係をよくするような取組を考えることが教師の責務であると考え。そして、そのように学習環境を整えることで、人権が守られているクラスや学級を作り上げ、安心で安全な学校へと発展させていくことができると考えるからである。

### 【参考文献・資料】

- 荒木紀幸（2007）「7章 自尊感情 6 自尊感情と原因帰属、学業成績との関わり」  
荒木紀幸編『教育心理学の最先端－自尊感情の育成と学校生活の充実－』あいり出版、p165-166
- 越智泰子・加島ゆう子・大東和子・棚橋厚子（2012）『授業ですぐ使える！ 自己肯定感がぐんぐんのびる45の学習プログラム』合同出版、p8
- 澤田稔（2017）「教育問題法律相談No.399 2分の1成人式について」『週間教育資料』No.1420、2017年2月13日号、日本教育新聞社、p31
- 西村健吾・多田幸城（2017）「小特集 子どもも保護者も大満足！「二分の1成人式」立志式」成功のポイント」『授業力&学級経営力』82号、明治図書出版、p70-77
- 藤上真弓（2015）「イベントだけで終わらせない「1/2成人式」の在り方について：特別活動と総合的な学習の時間双方のねらいを達成するために」『教育実践総合センター研究紀要』40号、山口大学教育学部附属教育実践総合センター、p61-71
- ベネッセ教育情報サイト（2013）「9割が満足！親子で感涙する「2分の1成人式」とは!?」<http://benesse.jp/kyouiku/201301/20130117-2.html>（最終閲覧日：2018年1月13日）
- ベネッセ教育情報サイト（2017）「いまや定番化しつつある小学校のイベントに！「2分の1成人式」とは？」<http://benesse.jp/kyouiku/201702/20170227-2.html>（最終閲覧日：2018年1月13日）
- 毎日新聞（2015.2.27）「2分の1成人式 より盛大に」『毎日新聞縮刷版 平成27年2月号』782号、2015年、毎日新聞社
- 吉田佳子（2004）「小学校モデル 将来設計「二分の1成人式」（小・中・高等学校の連続性に配慮した進路学習 2月）『進路指導』77巻2号、日本進路指導協会、p30-33

## 2分の1成人式と自己肯定感

渡邊周二「天栄村における成人式の現状について-1/2成人式から-」『社会教育』679号、  
全日本社会教育連合会、p60-62

渡邊ひとみ（2007）「コラム 自尊感情の決定因は？家庭と学校」荒木紀幸編『教育  
心理学の最先端－自尊感情の育成と学校生活の充実－』あいり出版、p177